

# 平成三十年度入学者選抜 適性検査Ⅰ

## 注意

- 一 指示があるまで、この用紙を開いてはいけません。
- 二 問題は  から  まで、1から13ページまで印刷してあります。文字などの印刷がはっきりしないところや、ページが足りないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 三 検査時間は五〇分間で、終わりは午前一〇時五〇分です。
- 四 声に出して読むではいけません。
- 五 受験番号を解答用紙の決められたところに記入しなさい。名前を書くところはありません。
- 六 答えはすべて解答用紙に書きなさい。決められた字数で答えを書く場合は、解答らんの一ます目から書きなさい。なお、句点（。） 読点（、） かぎ（「」）なども一字に数えることとします。
- 七 答えを直すときには、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 八 本文中の※が付いている語句には、それぞれの文章の終わりに意味の説明があります。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは日々、忘却曲線と戦っている

教養が少ない人は、さまざまな方法で知識を増やしていくことで、俄然教養が増えます。  
※1が短

「知識がなくて言葉にできない人」は知識を増やすことで、「知識があつて言葉にできない人」へ、さらに言葉を磨くと、「知識があつて言葉にできる人」に近づけます。「知識がないけれど言葉にできる人」も、知識量が増えることで、「知識があつて言葉にできる人」になれます。(資料1)

ここでは、自分の教養をどのように蓄積していくのか、その方法についてお話しします。

私は、中学から大学までともに過ごした同級生とは、毎日何時間も話していました。それだけ時間がたくさんあったんですね。何を話していたかというと、主に、互いに読んだ本の話をしていました。自分が読んだ本だけでなく、相手が読んだ本の中身まで吸収することができる。①一粒で二度おいしいとはまさにこのことです。

ですが、実際もつともよかったことは、友達に話すことで自分のインプット、すなわち自分が得た知識が強く定着したということです。話した本の内容は、いまだに忘れていません。大学一年のとき読んで話した、マックス・ヴェーバーの『プロテスタンティ

20

ズムの倫理と資本主義の精神』(岩波文庫)については、今でもはっきり覚えていますし、内容を説明することもできます。一方、友達に話していない本のことは、読んだ記憶はあるけれど、いまいち記憶が曖昧です。

「エビングハウス忘却曲線」というのがあります。(資料2)時間の経過による記憶(忘却)率の変化を研究したもので、一時間後には、五十六%忘れていたといった結果が出ています。

私はこれを見るたびに、小学校一年生ではじめて習うべきは、この忘却曲線なのではないかと思いつくつく思います。復習が大事だと親や教師が繰り返す言うよりも、この忘却曲線を知って「こんなに忘れてしまうんだ。」ということに衝撃を受ければ、子どもたちも自らすすんで復習することでしょう。

私たちは忘却曲線と戦わなくてはならないのです。覚えた直後、遅くとも一日経つ前、記憶がまだ新鮮なうちに定着させる努力をしなくてはならない。

そこで有用なのが「人に話すこと」、積極的なアウトプットです。私の例で言えば、読んですぐに友達に話した『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の内容は、あれから三十年経った今でも覚えていますので、忘れる前にアウトプットすることは効果があると言えます。

40

教師という仕事をしていてわかったのは、授業で話したことは忘れないこと。これもアウトプットの効果だと思えます。たとえば、一夜漬<sup>ツ</sup>けで準備をしたとしても、教師として一度授業で話せば、まず忘れることはありません。一年後に同じ授業をすることになっても、できます。どんな方法でインプットをしたかが問題ではない、アウトプットすれば知識の定着は高まるのです。

これが、テストのための一夜漬<sup>ツ</sup>けですと話は違<sup>ちが</sup>います。テストが終わったら、きれいさっぱり忘れてしまう。テストで解答を書くのは、ここでいうアウトプットとは違います。覚えたことをそのまま出すのではなく、問いに対する答えを書くだけなので、答えさえあつていれば前後の文脈は関係ありません。ですから短期記憶としてすぐに忘却<sup>かなた</sup>の彼方に消えてしまうのです。

教師の一夜漬<sup>ツ</sup>けと、生徒の一夜漬<sup>ツ</sup>けは、仕事としての責任感と覚えたことのすべてをアウトプットするという緊張<sup>きんちやう</sup>感により、大きな差が生まれるのです。

私は二十年以上、大学の教職課程<sup>※3</sup>をもつていて、毎年学生たちを教育実習に送り出しています。

教育実習では、学校のやり方にあわせて授業をするので、歴史を専門科目にしている学生でも、急に「来週の授業で地理を担当してほしい。」といわれることがあります。その学生にとつては、大学受験のときでさえ勉強していない科目です。でも、生徒たちのために必死に準備をします。一夜漬<sup>ツ</sup>けならぬ「一週間漬

50

60

け」。そうして授業をした後は、すっかり自分のものになります。また、同じ授業を頼<sup>たの</sup>まれたとしても、何の心配もなくできるようになっている。これはまさに、アウトプットのなせる技<sup>わざ</sup>です。

勉強したことは、人に話すことで知識として定着<sup>ちやう</sup>します。

つまり、教える側に回れば確実に勉強はできるようになります。アウトプットすることで忘却<sup>わす</sup>れ曲線のカーブを緩<sup>ゆる</sup>やかにできるので、得たことはどんどん話したほうがいいのです。

② 情報や知識を「生もの」だと思つて、早<sup>みな</sup>めに皆<sup>みな</sup>さんに食べてもら<sup>あ</sup>う。そういう感覚で取り扱<sup>あつか</sup>うといいと思います。

情報や知識というのは、アウトプットすると減ると思うかもしれませんが、それは誤解です。むしろ、聞いた側は忘却<sup>わす</sup>れ曲線にしたがつてあつという間に忘れてしましますが、話した方は記憶として定着するので得をする。そういうシステムになっているのです。

それに、もっている知識をアウトプットしまくった方が、新しいアイデアが生まれやすくなるのです。そのことは、サイバネティックス理論（生物と機械における通信<sup>せうじゆん</sup>、制御<sup>せいぎよ</sup>、情報処理の問題を統一<sup>いつじ</sup>的に取り扱う学問）を生み出した数学者、ノーバート・ウィーナーのエピソードを読んで納<sup>な</sup>得<sup>とく</sup>しました。

ウィーナーは天才と呼ばれた人なのですが、大学でも道端<sup>みちばた</sup>でもとにかく歩きまわり、会う人に片<sup>は</sup>端<sup>は</sup>から自分の知識やアイデアについて話しまくったそうです。話せば話すほど、新しいアイデ

70

80

アが浮かび、またそれを話すと別のアイデアが浮かんでくると言ったウィーナーのことを知って、アウトプットの効果を再認識しました。

ただし、小説を書いたり物を作ったりする創作活動においては、あまり話しすぎるとアイデアが拡散して消えてしまう人もいるようなので、注意が必要です。

普段の生活の中で、友達と話すときに「そういえば、この間知ったんだけど。」というふうに自分が得た知識をぼんぼん話しかうことができれば、ずいぶん活気のある対話空間がそこかしこで生まれるのではないだろうか。

それがうまくできないとしたら、学校教育がアウトプットに関して消極的だったということかもしれません。インプットを重視しすぎた結果、かえってインプットの定着が不十分になってしまったのです。

※1 俄然……急に、急激に。

※2 マックス・ヴェーバー……ドイツの政治学者。

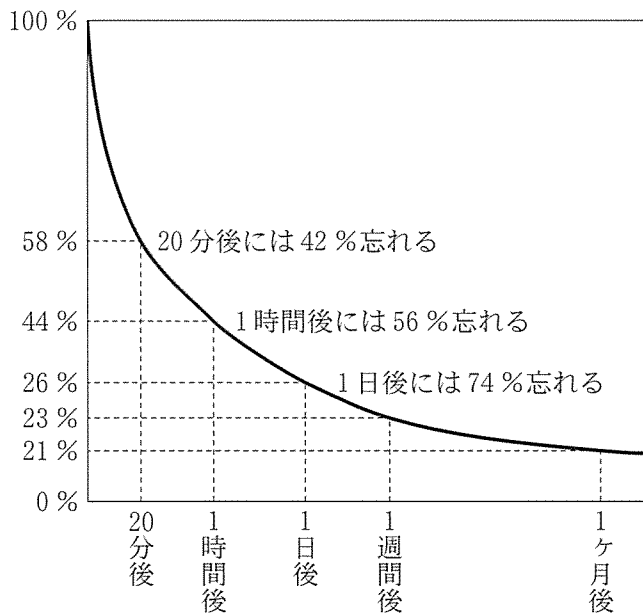
※3 教職課程……教員になるために必要な科目。

(齋藤孝 『言葉にできる人』の話し方) 小学館新書による。出題のために省略した部分、表記を変えたところがあります。

90

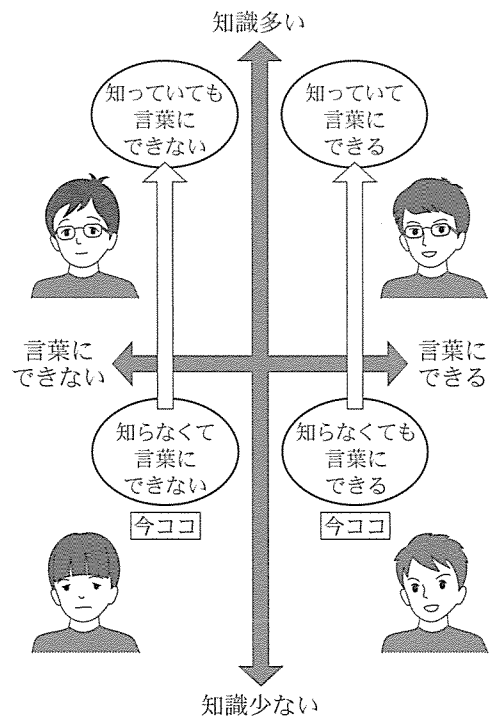
資料2

エビングハウスの忘却曲線



(齋藤孝 『言葉にできる人』の話し方) により作成)

資料1



(齋藤孝 『言葉にできる人』の話し方) により作成)

問(一) — ①の部分「一粒で二度おいしいとはまさにこのことです」とありますが、「このこと」とは、具体的にどういうことでしょうか。文章中の言葉を使って、六十字以内で書きなさい。

(二) — ②の部分「情報や知識を『生もの』だと思って、早めに皆さんに食べてもらおう」は比喩表現(たとえ)です。筆者がこの比喩表現で伝えようとしたことはどういうことですか。六十字以内で説明しなさい。

(三) この文章を読んで納得したたかしさんは、資料1と資料2を使って、この文章の内容を友達にアウトプットしてみることになりました。しかし、資料1と資料2だけでは、説明しきれないことに気がつきました。そこで、たかしさんは、自分でもう一つ資料を準備することにしました。どのような資料を準備する必要がありますか。理由とともに、あなたの考えを書きなさい。

ただし、「・・・を準備する必要があると思います。なぜなら・・・」という形で書くこと。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

- ・「成功」の反意語は「失敗」である
- ・「賛成」の反意語は「反対」である
- ・「好き」の反意語は「嫌い」である

これらは小学生にもわかるような「常識」に見えます。

本当にそうでしょうか。

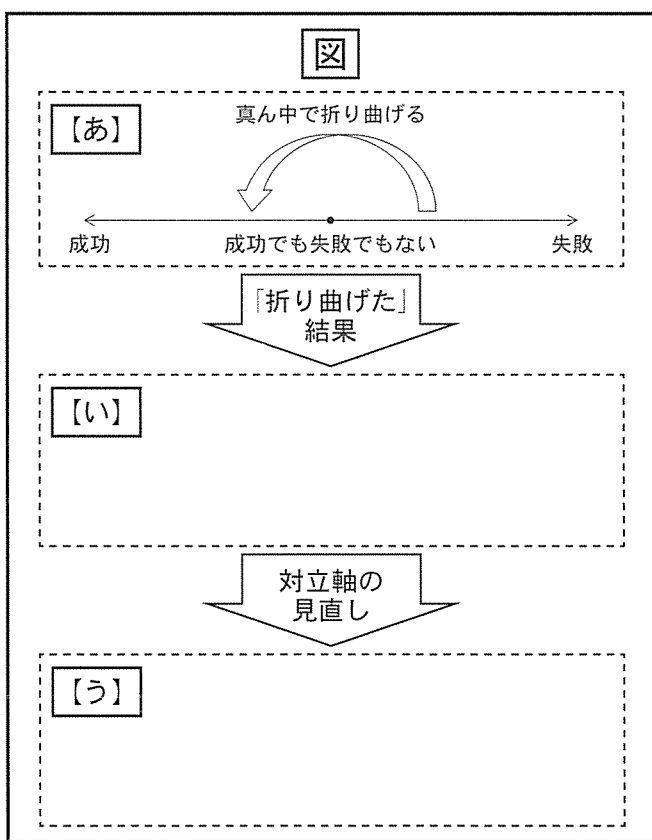
今回はこうした固定観念を異なる視点から見ることによって新しいものの考え方ができるという「やわらかい頭の使い方」の事例を解説したいと思います。

まずは『成功』の反意語は『失敗』である」という常識を違う見方で見てみます。成功と失敗は一般には何らかの結果の「両極」であると考えられるためにこれらが反意語と見なされるわけです。つまり図の【あ】の横棒上のような関係になります。ここでは成功と失敗が両端にある構図ですが、視点を変えるためにこの軸を真ん中から二つに「折り曲げて」みます。

こうすると、左の端には「成功」と「失敗」が並び、右端にはそれらの中間、つまり「成功でも失敗でもない」という状態が位置づけられます(図の【い】)。ここで「成功でも失敗でもない」という状態を改めて考えてみましょう。そもそも何かをやれば、その結果がうまくいけば「成功」となり、そうでなければ失敗となります。たとえそれが失敗でも、やった結果やそこからの教訓

10

20



(細谷功『やわらかい頭の作り方』より作成)

は残るし、やった前とは状況は確実にちがってくるはず。しかし、何もしなければ、「成功でも失敗でもない」状況がずっと続くことになります。そう考えると、「成功でも失敗でもない」という状況を一番作り出すのは「何もしない」という状態であることに気づきます。

そう考えれば、この半分になった軸の両端が再び一つの考え方の軸になっていることがわかります。つまり、「何か行動する」と「何もしない」という二極になるということです（図の「う」）。

この構図からおわかりでしょう。「成功」と「失敗」は実は紙一重（極めてわずかな差）の「同意語」で、それらの反意語は「何もしないこと」ということになるのです。

一九九〇年代を代表するイタリアのサッカー選手、ロベルト・バッジヨは「PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気のある者だけだ。」という言葉を残しています。この言葉は先の「成功と失敗の構図」からみると非常によく理解できます。

少なくともPKで失敗するためには、競技場に出ていってPKを蹴るだけの資格を得る必要があります。逆に失敗に一番遠い人というのは観客席（やテレビの前）で座って見ている人だということになります。

また、このような「両極と真ん中は実は対照的であって、両端に見えるものは実は似ている」という考え方は北極—赤道—南極の関係性にも当てはまります。文字通り両極のように見える北極と南極が実は気候的にも似ていて、対極にあるのが赤道だという構図です。

同じように考えてくると、「賛成」と「反対」は「明確に自分の意見を持っている」という点でむしろ「同意語」になり、この

対極は「どちらでもない」、つまり「自らの明確な意見がない」ということになります。

何かを実施しようとするときには必ず賛成する人もいれば反対する人もいます。反対派を説得するのも大変ですが、むしろ「明確に意見を持っていない」人を説得する方が大変な場面もあるのではないのでしょうか。「反対している人」の方が、理解さえ得られれば逆に賛成に回ってくれることもあるのに対して、「賛成でも反対でもない人」というのは最後までつかみどころがありません。

同様に、「好き」と「嫌い」は「対象への関心が高い」という点では同意語で、これらの反意語は「無関心」と見ることもできます。レストランやお店等でのクレームを受けた場合に、これをチャンスととらえる人がいます。それは、クレームを言うときの人間は「感情が高ぶって精神的に近づいている」分、その後は対応を誤れば「二度と来ない」ことになってしまいますが、すかさずサービス券を渡す等のフォローをすれば、逆に

①

この考え方を応用すると、「新しいアイデアを創造的に生み出せる人」と「文句ばかり言っている人」というのも実は紙一重であることがわかります。「半分に折った」軸の両端には、「現状に満足していない」と「現状に満足している」という対極の言葉が

40

30

60

当てはまります。つまり、実は「不平不満ばかりの人」はその  
エネルギーを前向きに使えば実はアイデアマンに変身する可能性  
があるということです。

※3 往々にして組織というのは、斬新※4 ざんしんなアイデアや創造性を求める

といいながら、「不満だらけの人」を排除※5 へいじょし、「協調性のある人」  
を登用※5していきます。これがいかに矛盾むじゆんしているかというの  
も「半分に折った」構図を見れば明らかでしょう。

② 「両極端か中庸か」という構図、ぜひ読者の皆さんの身の回り  
でも探して「半分に折って」違う見方で考えてみて下さい。

※1 固定観念……思い込み。

※2 クレーム……苦情。

※3 往々にして……しばしば。

※4 斬新……目新しい。

※5 登用……取り立てて用いること。

※6 中庸……どちらにもかたよらないこと。

(細谷功『やわらかい頭の作り方』筑摩書房による。出題の  
ために省略した部分、表現・表記を変えたところがあります。)

問(一) 文章の内容をふまえて、図の【あ】を参考に、図の【い】・【う】を書きなさい。ただし図の【い】を説明するために、「実は紙一重」  
という語句を必ず使うこと。

(二) 文章中の空らん ① には、どのような内容の言葉が入るのが適切ですか。前後の言葉とのつながりに着目して、当てはまる言葉を書きなさい。



(三) — ②の部分について、あなたは、たかしさんとみどりさんと一緒に身の回りでの例を考えています。あなたならどのような例を出しますか。【a】と【d】に入る言葉を考えて書きなさい。

ただし、すでに文章中に書かれている例を使つてはいけません。

たかしさん      まず、身近な例で考えてみようか。それにしてもまずは、意味が対になる言葉を探さないとね。何か思い当たるかな。

みどりさん      そうだなあ。ただ、意味が対になる言葉を探せばいいわけではなく、この半分になった軸の両端が再び一つの考え方の

軸になっていないといけないのが難しいよね。賛成と反対は反意語だけど、「何か行動する」という意味では、同じ意味で、その対極には「何もしない」と、意味が対になる言葉が生まれるんだよね。

あなた      では、【a】と【b】という例ならどうか。【a】と【b】は意味が対になる言葉だよ。それに、【a】と【b】は

【c】と考えると、この二つは紙一重だよ。さらに【c】という言葉の対極に【d】という言葉が入るね。

たかしさん      そうだね。思いつかなかったなあ。

みどりさん      では、身近な周りの例として、発表するとしたらどうなるかな。

あなた      【a】と【b】は、反意語であるが、【a】も【b】も【c】と考えると紙一重であり、半分に折った軸の両端には

【c】と【d】という対極の言葉が当てはまります。

三

次の文章 **A** は、平安時代に書かれた物語である『源氏物語』の作者、紫式部が越前（現在の福井県北部を中心とする地域にあたる）で生活していたころの話です。紫式部は、二十代の頃、一年ほどだけでしたが、越前で生活しています。また、文章 **B** は、歌人俵万智の『よつ葉のエッセイ』の一部です。二つの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

**A**

紫式部は、一年余りを越前国府で過ごしました。つまり、北国の春夏秋冬の四季を過ごしたのです。中でも、冬の厳しさ、雪の多さは印象深かったようです。とりわけ、越の白山として歌枕（歌に詠まれる名所）になっていた白山は、武生（現在の福井県越前市）からも眺めることができ、その荘厳な白さは紫式部の心に強い印象を残したようです。

※1 越前からの帰り道、紫式部は、琵琶湖の舟から白い雪を頂いた伊吹山を見えています。その時の歌は

名に高き越の白山ゆきなれて

伊吹の嶽をなにとこそ見ね

10

私は、評判の高い越の国の白山の雪を見慣れてしまったから、伊吹山がどんなに白くても、たいした物とは思わないの、というものでした。

紫式部は、越前の周囲の自然に囲まれながら、特に厳しい冬の寒さの中で、真っ白に神々しくそびえる白山の雪の白さを何度も見ていたのでした。紫式部は越前で雪山の最高のものを見たのでした。このように最高のものを実感できることは、自分の中に、物事を判断する一つの物差しを獲得するということになるはずですから、伊吹山をたいしたことがないと言いつつ切ることができたのです。

日本海も見ました。奈良時代から作られていた今立の越前和紙も手にしたはずですよ。

こうした数々の最高のものを実感することができたのが、越前での暮らしだったのです。

そして、紫式部は、なんといっても都にはない人々の暮らしと

30

環境に触れたはず。一つの世界を理解するためには、それと同質でないものを知ることは重要です。白い色の意味は、白くはない色と比べられて初めてはつきり理解できます。都のさまざまな人間模様を、都と同質ではない人間模様を見ることがよつて、改めて見直し、考えを深めることができたはず。こつとした体験が、物語作者としての才能を、おそらく生まれつき与えられていた紫式部をいつそ豊かな人に成長させ、源氏物語という大作を生み出す原動力になったことは間違いありません。

源氏物語の中に、越前での暮らしの直接の反映を見いだすことは困難です。

しかし、たとえば、蓬生の巻で、光源氏から忘れられて、すっかり落ちぶれてしまった未摘花の邸が雪に埋もれている様子を、次のように描いています。

※6 霜月ばかりになれば、雪霰がちにて、ほかに消ゆる間もあるを、朝日夕日をふせぐ蓬葎の陰に深う積もりて、越の白山思ひやらるる雪のうちに、出で入る下人だになくて、つれづれとながめたまふ。

#### 【現代語訳】

十一月頃になると、雪や霰がふるようになり、他の場所では消えている所もあるが、(ここは)朝日、夕日をさえぎる生い茂つた草の陰になり、深く積もつて、越の白山が自然と思ひ出されるような雪のなかに、出入りする召使いさえおらず、することもなくぼんやりと日々を過ごしている。

また、浮舟の巻では、一緒にいたいと訴える宇治に住む浮舟に、都に帰らなければならぬ母親が、次のように浮舟を慰めています。

「さなむ思ひはべれど、かしこもいともの騒がしくはべり。この人々も、はかなきことなど、えしやるまじく、せばくなどはべればなむ。武生の国府にうつろひたまふも、しのびては参り来なむを、なほなほしき身のほどは、かかる御ためこそいとほしくはべれ」など、うち泣きつものたまふ。

【現代語訳】

「私もあなたと一緒にいたいと思いますが、都の家の方でも何かと用事がございます。こちらで、あなたに仕えてい

※10

る女房たちも、ちよつとしたことなどできそうもない、

狭い所でございますので。やはり、あなたを都に迎えて一

緒にすることはできません。たとえあなたが、武生の国府

80

にお移りになつても、必ずこつそりとお伺いしますから

ね。ろくでもない私の身の上では、あなたにちゃんとした

ことをしてさし上げられなくて、本当にお気の毒でござい

ます。」などと、母は泣きながらおっしゃる。

母親は浮舟を都まで連れて行ってあげることにはできない。宇治

に浮舟を残して帰って行くけれど、たとえ武生の国府という遠い

ところにあなたが住むようになっても必ずお訪ねします。まし

て、宇治だからたびたび訪ねてきますと、浮舟を慰めている場面

です。

90

※1 国府……現在の県庁所在地のこと。

※2 伊吹山……滋賀県と岐阜県の県境にある山。

※3 神々しい……神秘的な感じ。

※4 蓬生……『源氏物語』を構成する巻の一つ。

※5 末摘花……『源氏物語』の登場人物の一人(女性)。

※6 霜月……現在の十一月。

※7 浮舟……『源氏物語』を構成する巻の一つ。

また「浮舟」は登場人物の一人(女性)。

※8 宇治……京都府の南部に位置する土地。

※9 武生の国府……当時、国府は武生にあった。

※10 女房……貴族などの家に仕える女性。

(福嶋昭治『源氏物語 紫式部と越前武生』による。出題のために省略した部分、表現・表記を変えたところがあります。)

田原町——これ、たわらまちと読む。そして俵万智——私の名前であるが、おなじくたわらまち。駅にはその名が、ひらがなでどかんと書いてある。おかげで私は、入学当初から文字通りの有名人。高校三年間は、フルネームがニックネームであった。

「親がギャグでつけたんですか？」と真面目に聞く人もいたが、もちろんそんなことはない。私は河内生まれの河内育ちで、十四歳までは大阪で過ごした。だからふるさとというと、大阪なのかな、福井なのかな、と少し迷ったりする。

しかし東京に一人で暮らす今、遠きにありて思うのはやはり福井である。父がいて母がいて弟がいて雪が降って海があつて水仙が咲く。

② 大学卒業後、福井に帰ろうかどうかずいぶん迷った。そして人一倍ホームシックの私が、結局帰らずにこちらで就職した。ふるさとの見える位置に、自分を置きたかつたからである。

東京で一人暮らしをはじめて七年になる。学生のころから私のホームシックは有名で、今でもそれは変わらない。

バスを降りるとき、たいていの子どもたちが言う「ありがとう」というあいさつ。これを聞くとひとまず福井に帰ってきたなあという気になる。東京ではありえない。なぜなら、ほとんど

20

のバスが一律料金で、乗車するときに運賃を払うからだ。降りるときは勝手に後ろのドアから降りる。運転手さんに「ありがとう」とを言いたくても言えない。効率的ではあるが、なにか寂しいしくみである。

海を見に行く。日本海が好きだ。そして私はふたまず？ 福井に帰ってきたなあという気になる。

おそばがおいしくて、雪が降って、水仙が咲く。足羽山の茶店、足羽河原の桜並木、二両編成の路面電車。福井はあまりにも「ふるさと」だ。こんなにふるさとらしくていいんだらうか、と思ってしまうぐらい「ふるさと」だ。ふるさとしすぎてこわい——そんな思いを、私は一方で抱く。

だから東京にいる。ホームシックのくせに、福井が好きでたまらないくせに。東京にいる。自然のふところ暮らしてきた日本人が、長く「自然」という言葉を持たなかったように、ふるさとに包まれてしまうと、そのとたんにふるさとが見えなくなってしまうような、そんな気がするのだ。幸せすぎると幸せがあたりまえになる。あたたかすぎるとあたたかさに鈍感になってしまふ。東京にはいろんな人間がいていろんな出会いがある。おもしろくて寂しくて物がよく見える。

40

選択肢二つ抱えて大の字になれば左右対称の我

※1 ホームシック……ふるさとや家族から離れている人がそれらを恋しく思つて悩むこと。

左はふるさと、右は東京である。私の心にはY字型の亀裂が

※2 一律料金……乗り降りの場所にかかわらず、同じ料金

あつて、それは歌を作るエネルギーになつていようだ。心はい

※3 亀裂……切れ目が入つて、ひび割れること。

つも引き裂かれていゝ。ふるさとに帰りたくて。東京で生きてゆ

（俵万智『よつ葉のエッセイ』河出書房新社による。出題のために省略した部分、表現・表記を変えたところがあります。）

問(一) — ①の部分「越前での暮らし」とありますが、蓬生の巻、浮舟の巻の文章では、越前での暮らしで実感してきたことがどのよう

にかかれていますか。解答らんにくる形で、それぞれ書きなさい。

(二) — ②の部分「ふるさとの見える位置に、自分を置きたかつた」のはなぜですか。十五字以内で書きなさい。

(三) 文章 **A**・**B** から分かる紫式部と俵万智の共通点について、あなたの考えを書きなさい。ただし、あとの条件1、条件3に合わせて書きなさい。

条件1 一段落目には、文章 **A**・**B** から分かる紫式部と俵万智の共通点について書くこと。

条件2 二段落目には、第一段落で述べたことをふまえて、あなたが中学生になつて短歌や物語（文学作品）を作るときに、心がけたことを具体的に書くこと。

条件3 百二十字以上二百字以内で書くこと。

高志中学校入学者選抜

適性検査Ⅰの出典の訂正連絡について

次のように訂正願います。

二ページ

三

文章

A

の出典、

部分を修正

誤

『源氏物語

紫式部と越前武生』



正

『源氏物語

紫式部と越前たけふ』

